

## IDB Lab インターン体験記

### 自己紹介

こんにちは。現在早稲田大学政治経済学部 4 年の山口剛正です。2019 年の夏に私は IDB Lab（米州開発銀行多国間投資基金）で働いていました。

### 応募理由

大学ではスペイン語習得・ラテンアメリカ研究を通して中南米に関心を持ちました。休みの期間を利用して中南米を訪れ現地の方とお話をする、また留学先のアメリカ合衆国で中南米移民の方に読み書きを教える中で改めて人々が幸せに暮らせる中南米・カリブを生み出すことに貢献したいと思い応募するに至りました。

### 仕事内容

仕事ではリサーチとプロジェクト管理を行っていました。リサーチでは基金の資金調達先について調査をしていました。プロジェクト管理ではマップ作成や四半期レポート作成に携わっていました。基金を全体的に見られる仕事を行ったことでプロジェクトを実行に移していく段階を学ぶことができました。

### インターンシップ中の一日の過ごし方

毎朝 9 時前に出勤して上司の方と仕事の進展状況の確認・新しい仕事の確認をしていました。お昼になると、同僚や上司の方とご飯を食べながら色々なお話を聞いていました。そこから仕事に戻り、ミーティング等を行い夕方 6 時頃にはオフィスを出ていました。仕事終わりにも仕事場の友人や上司と食事をすることもあり、公私ともに非常に人間関係の良い職場であると感じました。

### IDB ならではの体験

IDB では様々な専門家の方にお話を聞くことができます。私自身大学を通してラテンアメリカについての勉強をしていたので様々な方とお話することで専門知識や文化について理解を深めることができました。また、第一言語がスペイン語であるので米国に位置していながらラテンの文化の中で仕事をするのも IDB ならではの特徴です。

### 難しかったこと、やりがいを感じたこと

資金調達のリサーチは難しいと同時にやりがいがありました。私自身詳しい金融知識がない中、日々新しい知識を学びながらリサーチをしていました。リサーチが思うように進まない時もありましたが、上司の方からアドバイスを頂きながら日々学習することでプレゼンテーションを完成させることができました。専門家を相手に私がどのような価値を生み出せるのかを考えることは難しいと思ったものの、やり遂げたことで今後への学習意欲に繋がりました。

### 体験を通して成長できたこと

今回の経験を通して、開発を「行う」ことについてより広く考えられるようになりました。大学では理論や事実を学んでいた中で、IDB では実際に国際機関で開発を行う上で必要なことを学びました。また、常に上司の方から丁寧なアドバイスをいただけたことで、社会人としての働く中でのマナーやコツを学ぶことで成長できました。

## 今後の目標

IDB でのインターンシップを終えて、より楽しく開発経済分野の学習をできています。現在は中南米を専門とする高橋百合子教授のゼミに入りソーシャルイノベーションについて学習しています。短期での目標はゼミでの金融包摂についての論文を英語・スペイン語で完成させ、現地レベルでの開発経済への理解をより深めることです。長期での目標は、経済開発に携われる仕事に就き、プロジェクトを実行することです。中南米・カリブ諸国を良くしたいという思いは今も変わりません。その意志を強く持って今後も日々精進していきたいと思っています。 1.



1. 同じオフィスで2か月時間を共にしたインターン3人とアシスタントの方一人と取った写真



2. 新社員の皆様と共にコロンビアカントリーオフィスとスカイプで交流を行ったときに取った写真